著 書 ・ 学 術 論 文 デ ー タ

２００４年　３月　１０日

氏 名 麦 倉 哲

著書，学術論文等の名称	単著，共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　　要
(著書)（共著） １．大衆長寿時代の生き方	共著	1990年5月	ミネルヴァ書房	216-240頁，第11章「＜生活の質調査＞にみる高齢者のライフスタイル」を担当した。埼玉県所沢市と秩父市で実施した高齢者調査の結果を，生活の質の枠組みで分析した。高齢者の満足度のクラスター分析から満足度の類型を抽出し，またネットワークの類型を抽出した。概して，高齢者における社会的資源の保有の差が満足度を左右している。担当部分：11章の生活意識・満足度に関するクラスター分析。（濱口晴彦，嵯峨座晴夫，店田廣文，臼井恒夫，麦倉哲，海野和之，柳洋子，澤純子，片岡規子，長谷川正康，金井淳，大工原秀子，加藤穣治，宮内孝知，佐久間淳，百瀬美枝子）

２．実践問題行動教育体系１子どもを取り巻く生活環境	共著	1991年1月	開隆堂	202-221頁，７章社会環境と問題行動，子どもを取り巻く状況と問題行動１節「社会環境と問題行動」を執筆した。社会環境と問題行動との関係を定義し，問題行動の先行条件として生活障害が存在すると位置づけた。生活障害とは，社会的資源の配分が不十分な状態ないし規範形成の不備な状態である。問題行動に移行するには，さらに機会や手段の提供があった場合である。これをＰＵＳH要因とＰＵＬＬ要因とで整理し，問題行動の発生図式を作った。 （春木豊，菅野純，佐々木正人，滝坂信一，岩佐寿夫，田野倉寛，市塚照子，石井真治，今村泰洋，海野千鶴）
３．大衆長寿時代の老い方	共著	1992年11月	ミネルヴァ書房	134-148頁，第８章「大都市借家高齢者のネットワーク」を担当した。再開発で人口が顕著に減少している地域の借家高齢者を対象として調査結果から，高齢者のネットワークを分析した。対象地が下町であるため，借家高齢者の充実ぶりがうかがえたが，その一方で，再開発の動きがこうした層の高齢者の生活の安定を左右する要因として急激に浮上してきた。 （濱口晴彦，嵯峨座晴夫，臼井恒夫，麦倉哲，海野和之，長谷川正康，松澤大樹，大竹登志子，尾沢達也，河西和彦，木村亨，宮口伺迪，上坪陽）

４．社会学史の展開	共著	1993年4月	学文社	30-48頁「デュルケムとデュルケム学派」を執筆した。デュルケムの社会学を，デュルケムの研究生涯，社会学研究方法の整備，犯罪，自殺などの逸脱現象への注目とデュルケム社会学の完成などの観点から考察した。また，デュルケム学派について解説を加えた。 （児玉幹夫，根谷素久，安藤喜久雄，三上剛史，坂田正顕，木下英司，宮内正，田中耕一，小幡正敏，濱口晴彦）
５．生活問題の社会学	共著	1995年４月	学文社	34-51頁，第３章「売春」を執筆した。売春の社会学的定義について提案，現代売春の歴史的考察を加え，売春形態を類型化した。売春問題に関する論点を整理し，昨今の外国人女性売春についても考察した。 （井上實，矢島正美，麦倉哲，野田陽子，横田尚俊ほか）
６．高齢路上生活者	共著	1997 年 11月	東峰書房	64-98頁，「高齢路上生活者相談の内容」を担当した。路上生活経験のある高齢者のヒアリング調査の結果を示し，ライフヒストリーにより分類し，考察した。 （水田恵，高野正明，日高万智子，馬場英夫，藤井道子，藤井恒昭，岸越満里，今川勲，中本昭子，秋山善国）

７．多民族・共生の街　新宿の底力	共著	1998年１月	明石書店	151-177頁，第４章「新宿の危機は文化創造の新局面」を担当した。 新宿区大久保・百人町を中心にした売春問題や犯罪の広がりと，その中で生き抜く地域住民の生活の術を考察した。 （川村千鶴子，湊ジャヤンティ，オトコンバヤル・バトブヤン，伴野ジェシー，白京姫，古館秀子，野山広，渡戸一郎）
８．阪神・淡路大震災の社会学第２巻 ９．公共を支える民 １０．差別と環境問題の社会学	共著 共著 共著	1999 年 2 月 2001年２月 2003年３月	昭和堂 コモンズ 新曜社	224－247頁，「エスニック・コミュニティと被災者」を執筆。被災外国人の被災から復興までについて，社会学的に考察した。特に被災ベトナム人を担当して執筆した。 （柴田和子，岡本晴行，棚山研，日野謙一，西田芳正，原田隆司，黒木雅子，山西裕美，立木茂雄，辻勝次，中西典子，岩崎信彦，西村雄郎，国場壱子，麦倉哲，文貞実，浦野正樹，浅野慎一，過放，内藤三義，京谷朋子，野田隆，菅磨志保，荻野昌弘，高坂健次，鵜飼孝造） 190-207頁，第８章「福祉のまちづくりと障害者の参加」を執筆。公共を支える民のセクターとして障害者がいかに政策立案過程に参加し，バリアフリー化が進むかを考察した。 （寄本勝美，市川，岩崎恭典，早川，小原，佐藤，瀧井，麦倉哲，中村祐次，大江正章） 「障害者から見た都市の環境」について、差別の観点から、具体的に明らかにした。
１１。『エイジングと日常生活』	共著	2003年11月	コロナ社	「高齢者の自殺とコミュニケーション過程」

（学術論文） １．非難の思想	単著	1981年5月	立教大学法学部神島研究室 政治文化第６号	39-53頁，暴走族などの非行少年や非行集団が，国民の非難にさらされ，次第に非行性を強めていく過程を考察した。少年のアイデンティティを歪める「非難の思想」の形成過程とその現状を考察した。
２．デュルケム犯罪社会学の形成と展開	単著	1985年３月	早稲田大学社会学会 社会学年誌２６号	175-188頁，フランスの社会学者デュルケムについて文献研究した。彼の研究関心の中心部分に犯罪社会学があった。デュルケムがが，先行するイタリア犯罪学派やコント等を批判しつつ，独特の「正常ー病理」論を確立していく過程を跡づけた。犯罪を正常社会学の研究対象と位置づけて具体的研究に取り組むための方法論の重要性を確認した。
３．補導委託先における補導の現状	単著	1986年10月	日本犯罪社会学会 犯罪社会学研究11号	151-174頁，現行少年非行制度の中で，民間人が少年司法の中間段階で関わる事実上の処遇が，「身柄付き補導委託」である。この補導委託の受託先である「補導委託先」を調査し，複数を比較考察し特徴を記述し，類型化を試みるとともに，現状の問題点を指摘した。
４．青年文化としての高校生文化の変容過程	単著	1987年3月	早稲田大学社会学会 社会学年誌28号	175-188頁，青年文化の概念を整理するとともに，青年意識が７０年代から８０年代にかけて変化している点を，主な各種経年調査の結果から考察した。

５．加齢と社会生活の変容	共著	1989年6月	中央労働災害防止協会 労働衛生1989年６月号，vol.351	24-28頁，日本における高齢化の動向をたどりながら，高齢者のおかれている社会的環境の変化を追い，高齢者の生活の質が向上するための条件を考察した。なお，共同研究のため本院の担当部分を抽出することは不可能である。 （濱口晴彦，麦倉哲）
６．都市再開発地域における人口定住の可能性	共著	1989年９月	日本都市学会 日本都市学会年報22号	163-172頁，再開発の波に揺れる東京都心の複数の地域を調査した結果から，再開発という種として外在的な圧力が地域社会を変容させる過程を図式化した。地域住民の対象の様式から，再開発のパターンを類型化した。 担当部分：共同研究作業につき，本人の担当部分の抽出は不可能である。 （麦倉哲，横田尚俊）
７．人間科学部におけるコンピュータリテラシー教育	共著	1990年3月	早稲田大学人間科学部，人間科学研究３巻１号	55-65頁，早稲田大学人間科学部コンピュータ実習受講生を対象に，コンピュータ観の調査を実施した。クラスター分析により，学生のコンピュータ観の類型化をした。 担当部分：調査は共同で実施し，執筆はほぼ全面的に麦倉が担当した。 （麦倉哲，小川亮）
８．高齢者のネットワークと物的資源との関係	共著	1990年4月	早稲田大学情報科学研究教育センター 早稲田大学情報科学研究教育センター紀要vol.11	○頁，高齢者のネットワーク研究の枠組みを提示し，物質的資源の保有状況とネットワークの保有状況との関係，ならびに物質的資源とネットワークの活用状況との関係を考察した。土地住宅問題の影響が高齢者のネットワークに影響を及ぼしていることなども判明した。なお，担当部分の抽出は，共同研究につき，不可能である。 （麦倉哲，海野和之）

９．大都市都心部における地価高騰と地域住民生活	共著	1993年1月	早稲田大学情報科学研究教育センター 早稲田大学情報科学研究教育センター紀要vol.13	30-42頁，東京都心の再開発進行中の地域を詳細に分析し，その結果から，地域住民一人ひとりの「転出一居住継続」を左右する要因を考察した。住民は特定の居住基盤を活用しつつ，職と住の生活スタイルを選択しつつ，目の前に提示された生活課題への対処行動への対応の決めている。担当部分：土地所有階層ごとの分析を担当した。（浦野正樹，横田尚俊，海野和之，麦倉哲）
１０．東京の世界都市化と居住環境の変容	単著	1993年3月	東京女学館短期大学 東京女学館短期大学紀要第15輯	83-92頁，東京の世界都市化が，東京の土地利用に顕著に現れた社会変容の要因とされるが，これは疑わしい。ニューヨークと比べた東京の変容は異様である。地域住民の生活条件を改善することと相反するかたちで進む再開発の問題点を，各種資料から考察し，計画的な都市の発展のあり方を検討した。
１１．福祉のまちづくりと歩道点検調査	共著	1994年1月	自治研センター 月刊自治研，94年１月号	75-84頁，車イスからみた歩道の現状調査と問題点の整理し，移動を保障する検討手続きの提案した。歩道の整備基準について，幅員，段差，舗装状態，勾配（縦断勾配），傾斜（横断勾配）の５大要素を歩行空間の基本要素として掲げ，最低限度の基準を提示した。 担当部分：調査の実施，検討は両者で実施し，執筆は麦倉が担当した。 （麦倉哲，前島賢三）
１２．都市再開発地域における放火	単著	1994年３月	東京女学館短期大学 東京女学館短期大学紀要第16輯	101-113頁，1980年代半ばの土地集中買い占めとそれに連動した放火事件を事例的・統計的に分析した。放火犯罪の類型についても考察した。

１３．駅と段差	単著	1994年4月	交通新聞社 JRGAZETTE，No.85	52-55頁，都市化に伴い駅舎が立体化してきたことにより，障害者にとって駅の利用のしやすさが低下している現実を考察した。
１４．<土地問題の顕在化>現象とその社会的背景	共著	1994年５月	地域社会学会 地域社会学会年報第６号	167-197頁，東京都心の従前混住区が都市再開発の動きに伴い，急激に変動する過程を住民を対象としたしっかい（悉皆）調査をもとに分析した。麦倉は，「転出一定住」を決める意思決定の要因を考察した。 （浦野正樹，麦倉哲，海野和之，横田尚俊）
１５．安全で快適な歩道実現の方向性	単著	1994年7月	東京自治研究センター 東京の自治， Vol.13-No.14	２－８頁，障害者や高齢者など誰にとってもやさしいまちづくりを実現するための<歩道>の整備基準について，検討項目およびその手続きについて考察した。
１６．放火類型の社会学的考察	単著	1994年12月	人間発達研究会 人間発達の社会的課題	16-35頁，放火の社会学的研究。放火研究の社会学的類型論を提案し，類型別に考察を進め，社会学的放火研究の枠組みを提示した。
１７．リフト付き路線バスの現状と課題 －東京都交通局池86路線を中心に	単著	1995年3月	東京女学館短期大学 東京女学館短期大学紀要第17輯	73-92頁，東京都交通局が最も力を入れて導入したリフトバス路線の利用状況，バス停の問題点を考察，障害者の移動保障のための課題を検討した。
１８．外国人女性売春者の生活過程と犯行過程１～３	単著	1995年６～8月	マスコミ情報センター マスコミ市民 No.319-321	No.319，14-21頁，No.320 12-19頁，No.321，14-21頁， 外国人女性売春関連の犯罪統計および裁判傍聴調査の結果を分析した。傍聴記録をもとに生育史，来日過程，犯行過程，検挙の過程を分析し，日本の場私憤構造を分析した。

１９．売春街大久保・百人町の考察	単著	1995年9月	マスコミ情報センター マスコミ市民No.322	48-54頁，売春裁判傍聴記録ならびに東京都新宿区大久保・百人町地区の各種地域運動の過程を分析した。地域社会の取り組みと防犯の活動力とを関連づけて考察した。
２０．障害者はなぜこんなに事故で死ぬのか	単著	1995年11月	マスコミ情報センター マスコミ市民No.323	24-29頁，障害者が事故で亡くなる事例を考察し，車イスのホーム転落事故や歩行制約者の踏み切り轢断事故などを現地調査などを踏まえて考察した。障害者が短命で人生を閉じる構造の一端を解き明かした。
２１．大震災で問われた福祉のまちづくりと歩道対策	単著	1996年３月	東京女学館短期大学 東京女学館短期大学紀要第18輯	137-157頁，大震災後の復旧の時点で，障害者の移動環境整備が遅れたという問題点を実地調査した結果を分析し，あわせて被災前の整備のあり方等の問題点についても分析した。以上を踏まえて，障害者に配慮した都市整備の方向を提案した。
２２．阪神大震災における外国人被災者の被災から復旧・復興過程	単著	1996年9月	日本都市学会 日本都市学会年報，Vol.29	70-77頁，大震災で被害に遭った外国人の被災から復旧・復興途上の過程を分析し，民族，国籍による被災後の生活の推移の特徴や，地域社会における関係の接点の密度の特徴を考察した。
２３．高齢ホームレスの実態と福祉ニーズ	単著	1996年11月	早稲田大学人間総合研究センター Human Science, Vol.30	149-159頁，高齢路上生活者へのヒアリング調査を分析した。ライフヒストリーの中でどのようにしてホームレスに至ったのか，その生活史を類型化し，支援の課題を整理した。

２４．いじめ被害者の自殺念慮経験と教師・学校側の問題点	単著	1997年3月	東京女学館短期大学 東京女学館短期大学紀要第19輯	97-117頁，いじめ経験に関する学生調査を分析し，いじめの時代による変化や，年齢による変化，いじめ被害者の自殺念慮経験の有無と学校対策の有無などの関連性を考察した。子どもにとって相談できる環境の欠如という問題が深刻なことも明らかにした。
２５．ホームレスボランティアの意義と可能性	単著	1997年３月	東京ボランティアセンター ボランティアセンター研究年報‘96	１―13頁，ホームレス支援の活動はこれまで，政治運動，人権運動などの枠組みの中で展開されてきたが，ボランティア（あるいはボランタリー・アソシエーション）という枠組みで整理しなおすことにより，多様な活動を分類する有効性を提示した。
２６．ホームレス対策はなぜ行き詰まっているか	単著	1997年5月	日本都市学会 日本都市学会年報，Vol.30	165-170頁，ホームレスに対する行政施策は混乱して，有効性を発揮しえない現実を，調査結果により明らかにするとともに，今後の対策における行政とボランティア団体との連携の必要性とその方向性を示した。
２７．ホームレスの生活と福祉ニーズ	単著	1997年10月	東京市政調査会 都市問題，1997年10月号	15-26頁，ホームレス問題の深刻化の側面を，ホームレスの生活実態から明らかにし，行政施策の必要性とその方向性を示した。
２８．地域社会における売春問題の顕在化と環境浄化運動	単著	1997年10月	アジア太平洋研究センター 社会科学討究第１２５号	183-207頁，売春問題を，地域社会学的に考察し，社会学的構築主義の枠組みで，地域社会の運動と行政の関わりの関係を考察した。
２９．福祉のまちづくり整備と鉄道駅ホーム事故の防止について	単著	1998年5月	日本都市学会 日本都市学会年報，Vol.31	107-113頁，鉄道駅ホームにおける障害者の事故の例を分析し，福祉のまちづくりにおける整備上の問題点を提示した。

３０．阪神淡路大震災で露見したベトナム難民の被災ー復興過程にみる日本共生社会の現状	単著	1998年10月	アジア太平洋研究センター 社会科学討究第１２６号	193-213頁，被災ベトナム人の日本における生活の推移を考察し，日本において未解決の受け入れ難民の定住上の問題点を整理した。
３１．ボランティア・ＮＰＯの運営によるホームレス自立支援組織の意義について	単著	1999年３月	東京女学館短期大学, 東京女学館短期大学紀要第21輯	91-110頁，行政がホームレス対策に積極的に関わる方向が打ち出されてことを意義付け，これまでの行政のあり方と合わせて検討した。
３２．ホームレス問題に政府が取り組むことの意味と意義を考える	単著	1999年４月	ぎょうせい 晨，1999年5月号	60-62頁，行政がホームレス対策に積極的に関わる方向が打ち出されてことを意義付け，これまでの行政のあり方と合わせて検討した。
３３．地域社会の一員としてホームレス経験者が迎えられるために	単著	1999年12月	東京女学館短期大学, 東京女学館短期大学紀要第22輯	143-154頁，これまでのホームレス対策が充分な効果をあげなかった原因を考察し，ホームレスが安定した自立生活を送るためには，地域社会の一員として受け入れると共に，地域社会ネットワークの中で，支援していくシステムの構築が必要であることを明らかにした。
３４．ホームレスがNPOの支援により地域の中で自立すること	単著	2000年５月	日本都市学会, 日本都市学会年報VOL.３３	192-198頁，地域社会における自立支援活動において，生活保護受給の自立型においても，就労自立型においても，NPOやボランティアの自立支援活動が不可欠であることを明らかにし，提言した。
３５．自殺の社会学ノート	単著	2000年12月	東京女学館, 東京女学館教育，第５号	111-137頁，逸脱研究の視点で，自殺の社会学的研究の枠組みを提示するとともに，諸外国と比較して日本の自殺の特徴を考察した。

３６．国鉄分割民営化に伴う自殺 ー国鉄労働組合員調査から	単著	2001年12月	東京女学館短期大学，東京女学館短期大学紀要，第２４輯	111-133頁，1987年４月に実施された国鉄分割民営化前後の自殺について研究。生存する国労組合員について、当時の自殺念慮経験について調査を実施し、当時の改革の流れと関連付けて分析した。
３７．視覚障害者の道路横断面におけるバリアフリー対策についてー東京都・兵庫県における実証的研究を踏まえた基準化への提案	単著	2003年５月	日本都市学会、日本都市学会年報VOL.３６	